

# “わらべうた” 年齢別における音楽的発達の実践事例

—『0～5歳児の手あそび・歌あそび』の概説と活用例—

安 藤 千 秋

## I. 研究背景および目的

筆者は全国大学音楽教育学会中・四国地区に所属し、音楽教育の研究を長年行っている。学会では創立40周年記念事業の中・四国地区オリジナルのあそび歌曲集新刊として、保育者を目指す学生や現役の保育士・幼稚園教諭方向けに、『はぐくむアタッチメント0～5歳児の手あそび・歌あそび』<sup>1)</sup>を2023年4月音楽之友社より出版した。

出版に至る経緯は、2019年に中・四国地区学会共同出版事業として発足し、保育者の意識調査<sup>2)</sup>と既刊行の手遊び・からだ遊び集等の出版物44刊から内容(遊び方等)<sup>3)</sup>について分類から始まった。その後、会員8名が理論チームの小池、居原田、梶間と楽曲分析チームの久光、別府、山川、藤山、安藤に分かれ検討を重ね、①～⑥の内容を含めた遊び本の出版に至る。

- ① 対象を保育者・学生に絞り現場で活用できる
- ② 保育者が理解しやすい言葉を用いて動きをイラスト挿入する。
- ③ 愛着を高めることができる内容を記載する。
- ④ 0歳児(月齢5ヶ月)用にわらべうた調のオリジナル曲とわらべうたを掲載する。
- ⑤ 年齢に応じて非認知脳力の言葉をプラス、考える力をプラスする。
- ⑥ 年齢別にこの手あそび・歌あそびからどんな部分が伸びると記載する。

書籍の概要は、乳幼児の年齢を0～2歳、3～5歳、0～5歳の3つに分けた3章から成り、各章に音楽的コミュニケーションについての概説(理論編)と手あそび・歌あそびの図説(うた編)から構成する。理論編では、子どもの発達の視点から子どもと他者との関わりにおける音楽的コミュニケーションの重要性を説いている。うた編では、譜例とイラストを使って手あそび歌(スタンダードなわらべうた、オリジナル曲を含む)と遊び方を説明し、展開方法を提案している。第3章の0～5歳オールマイティでは、1曲を年齢別にマスターすれば、すべての年齢に対応可能である。大きめの譜例に簡単なコードを入れ、動きには親しみやすいイラストを挿入し、学生の保育実習や現役の保育者が活用できる書籍である。

筆者はこの本を「保育内容(表現の指導法)」科目の教科書として導入し、授業内の実践だけでなく、子どもが実際に表現している姿を知ることが重要と考え、子どもたちの遊び動画を授業で取り入れている。また、令和4年度香川県私立認可保育園連盟主催の保育士等キャリアアップ研修では、保育実践として年齢別の遊び指導を行った。今回は、出版した『はぐくむアタッチメント0～5歳児の手あそび・歌あそび』<sup>1)</sup>の3章0～5歳オールマイティからわらべうたを選曲し、こども園の保育者が活用例を基に子どもたちに実践した事例から、年齢別音楽的発達の分析と考察をする。

## II. わらべうたを用いた実践

### (1) 選曲と音楽的発達内容

わらべうたの研究は、「幼稚園の実践を分析対象

令和5年12月19日受理  
連絡先 〒769-0201 香川県綾歌郡宇多津町浜一番丁10番地  
香川短期大学 子ども学科  
TEL 0877(49)8051 FAX 0877(49)5252  
Email ando@kjc.ac.jp

とし、わらべうたを歌いながら遊ぶ活動には様々な身体動作が伴うため、その身体表現に着目して音楽的発達の様相を考察している。結果として、発達段階による動きから拍、強弱、速度、フレーズ等の音楽的発達の様相が明確に見られ、継続的・体系的に積み重ねていくことの重要性が明らかとなった。」<sup>4)</sup>と考察している(安藤 2021)。

今回の研究は、1つのわらべうたを保育現場の1歳児クラス、3歳児クラス、3・4歳混合クラスで実践した遊びから、年齢別の音楽敵発達を実証することにした。選曲は、『はぐくむアタッチメント0～5歳児の手あそび・歌あそび』<sup>5)</sup>から、0～5歳オールマイティ11曲中わらべうた「おちたおちた」譜例1とする。この曲は、実践する保育者が知っている遊び歌である、2音で構成され最も短い曲である、子どもが真似して歌える、簡単なメロディ・歌詞からアレンジがしやすい、繰り返しの音階で覚えやすい理由からである。

#### 譜例1



実践内容を概説に0～5歳児の発達段階を音楽的な視点から考え音楽的発達を大きく分けて3つの要素を提示している。この3つの要素(①認知②表現的要素③音楽の技能)から年齢別に実践を行い、今後の課題や遊び展開について実証したい。

#### ① 認知(メロディの正確さよりも言葉にリズムを意識する)

リズム：未満時は言葉の抑揚やふしのついた言葉、リズムの変化を認知しやすい

メロディ：声のコントロールや音程の保持ができるようになる5歳児あたりから

歌：強調されたリズム、オノマトペ、全体の輪郭、印象に残りやすい部分を意識しやすい

#### ② 表現的要素(相手が一緒に歌い、音楽を感じることができる)

身体との同期：音楽を感じようと、音楽の速さ

(テンポ)と身体の動きを同期させる。音楽の諸要素を五感で意識する⇒認知機能が向上

#### ③ 音楽の技能(ひとつの手あそびをさわる→まねる→変化する→考えるステップアップ)

遊び方の変化：動きの模倣、向かい合う、触れ合う、協働で表現

音楽の諸要素：歌詞の変化、拍やリズムに合わせて身体表現を変える⇒音楽的コミュニケーションが深まる<sup>6)</sup>

## (2) 実践方法

本研究の実践は、香川県Z市Nこども園の1歳児クラス、3歳児クラス、3・4歳児混合クラスの3クラスで、担当保育者が遊び実践を行った。実践の手順は①→②→③④である。

#### ① 遊び方の事例<sup>7)</sup>を見て理解する。

##### 【1歳児の遊び】

歌いながら一緒に触ろう

♪「おちたおちた なにがおちた けいと」ふわふわしているね…と柔らかい感触と一緒に感じよう

\*日常品の中から柔らかい感触のものを選り、素材の違いをたのしもう

##### 【3歳児の遊び】

歌詞を替えてうたおう

♪「おちたおちた へびがおちた」ニョロニョロニョロと言って誰かに触ろう

♪「とんだとんだ 飛行機がとんだ」と言って腕を左右にのばして自由に動こう

##### 【4歳児の遊び】

いろいろな歌詞に替えて遊ぼう

♪「にげたにげた ペンギンがにげた」

\*自由に身体全体を動かそう。友だちの動きから刺激を受けて表現しよう

#### ② 現在子どもたちが興味・関心ある内容を確認し実践内容を考える。

#### ③ 手遊び実践をする。

#### ④ 手遊びを撮影する。

1歳児クラスは保育者以外が入室すると落ち着きがなくなるため、自由遊び時に同クラスの保育者が撮影する。3歳児、3・4歳児混合クラスは筆者が撮影する。

### Ⅲ. 年齢別実践と考察

#### 【1歳児実践】

対象者：1歳児（女児：4名，男児：3名）

日時：8月4日（金）自由遊び（午前中）

保育者：保育経験3年目

表1


使用曲「おちたおちた」遊び内容

保育者の言葉：保，子どもの言葉：子，子どもの表現活動：『 』で示す

ねらい：普段から遊んでいるハンカチを使い振る・まねる楽しさを知る。歌に合わせて身体を揺らす・触るを楽しむ。

#### ① ハンカチを使って遊ぶ

♪おちたおちた なにがおちた（ハンカチ）

保「ひらひらひらー」

子「ひらひらひらー」『立って・座ってハンカチを振りながら声を出す』

\*保育者はひとり一人にハンカチを揺らしながら関わる。


♪おちたおちた なにがおちた（ハンカチ）

保「ふわ〜〜 ふわ〜〜」

『立って・座って頭のハンカチを取って振る』

\*保育者はひとり一人にハンカチを子どもの頭に被せながら声を掛ける。

♪おちたおちた ハンカチがおちた

保「ひらひらビューン」

子「ビューン」

『声を出しながら立って・座ってハンカチの動きに同期する』

#### ② 身体を触る

♪たたこたたこ どこをたたこ（ほっぺ）

保「きーーん」

『保育者のオノマトペに顔の表情で応答する』

♪たたこたたこ おなかをたたこ

保「ぼこぼこぼこっ」

『お腹を両手で交互に触る』『ごろーんと横に倒れる動きをする』

♪たたこたたこ あたまをたたこ

保「パチパチパチー」

保「ガッキーーン」

『ほっぺを手で触る』『保育者の顔の表情を真似て身体に力を入れる』

#### 【1歳児考察】

1歳児の音楽的発達について，3つのポイント（①認知②表現的要素③音楽の技能）から考察する。

##### ① 認知

- ・保育者のリズムを感じオノマトペで反応する。
- ・保育者の「ひらひらひらー」の声と動きを模倣し，同じ音程で歌を繰り返して歌う。
- ・「ガッキーーン」濁音のオノマトペに頬を両手で触りながら顔の表情を加えて楽しむ。

##### ② 表現的要素

- ・保育者の歌を聞いて，手拍子をしながら左右に揺れる。
- ・歌の速さに合わせて身体を揺らす。
- ・ハンカチを持って保育者の動きと同期させる。ハンカチを揺らしながら保育者の声を模倣する。

##### ③ 音楽の技能

- ・保育者の声の抑揚を聞き取り，パチパチ（軽く），ポコポコ（手を高く），ガッキーーン（力を入れる）動きの変化を楽しむ。

#### 【3歳児実践】

対象者：3歳児（女児：5名，男児：10名）

日時：8月4日（金）9：30～9：45

保育者：保育経験13年目

表2

<p>使用曲「おちたおちた」遊び内容</p> <p>保育者の言葉：保、子どもの言葉：子、子どもの表現活動：『 』で示す</p>
<p>ねらい：動きたい、言いたい気持ちを大切に自由に表現することを楽しむ。</p> <p>① 食べ物（座ったままで）</p> <p>♪おちたおちた なにがおちた 大きなリング（保子歌う）</p> <p>『手拍子しながら歌う』</p> <p>『手を広げ食べる』</p> <p>子「全部食べちゃった」「今度は小さいリング」</p> <p>♪おちたおちた なにがおちた（保子歌う）（小さい声で）小さいリング</p> <p>『身体も丸めて食べる』</p> <p>子「スイカをパキッと割って食べよう」</p> <p>♪おちたおちた なにがおちた（保子歌う）スイカ</p> <p>『手を広げ目も大きく開ける』</p> <p>保「スイカをパキッと割りに行こうかな」</p> <p>*保育者は一人ひとりにパキッと割りながら動く（動きながらコミュニケーションを楽しむ）</p> <p>♪おちたおちた なにがおちた（保子歌う）ダンゴムシ</p> <p>『床に伏せて寝る、丸まる』</p> <p>保「今後はツンツンしていこうかな」</p> <p>子「ワラジムシは丸まらないよ」「ほくも」</p> <p>*保育者は一人ひとりにツンツンと指先でつつきながら触る</p> <p>② 生き物（這う動き、立って動く）</p> <p>♪おちたおちた なにがおちた（保子歌う）カマキリ</p> <p>子「シュッーシュッー」</p> <p>『両手を交互に動かしながら友だちと向き合う』</p> <p>『両手を動かしながら部屋を動き回る』</p> <p>♪おちたおちた なにがおちた ちょうちょう</p> <p>『保育者が花になると花の蜜を吸いに花まで動く』</p>

<p>♪おちたおちた なにがおちた（保子歌う）はち子「大きいブンブンブン」</p> <p>保「針で刺しに行こうかな」</p> <p>子「刺されちゃった」</p> <p>『保育者や友だちに蜂の針を刺しに行く』</p> <p>♪おちたおちた なにがおちた（保子歌う）あり</p> <p>『四つん這いになり動きまわる』</p> <p>保「アリさん、そろそろ家に帰ろうかな」</p> <p>③ 替え歌（立って、動きまわる）</p> <p>♪とんだとんだ なにがとんだ とんぼ</p> <p>『手を広げて保育者に体当たりしながら動く』</p> <p>♪とんだとんだ なにがとんだ（保子歌う）かえる</p> <p>子「ピョンピョンピョン」</p> <p>『手を床につけ両足を上に跳ね上げながら進む』</p> <p>♪とんだとんだ なにがとんだ（保子歌う）ひこうき</p> <p>子「ビヨーン」「ビューン」「シュー」</p> <p>『声を出しながら部屋の隅々まで動く』</p> <p>子「今度はセミがいい」「この前捕まえた」</p> <p>保「それじゃ、リクエストがあったので最後セミになろうかな」</p> <p>♪おちたおちた なにがおちた（保子歌う）せみ</p> <p>子「ミーン」「ミーンミーン」</p> <p>保育者が両手を上に木になると</p> <p>子「ミーンミーンミーン」</p> <p>『声を出しながら、保育者の木にしがみ付く、木に登ろうする』</p>
---

### 【3歳児考察】

3歳児の音楽的発達について、3つのポイント（①認知②表現的要素③音楽の技能）から考察する。

#### ① 認知

- ・保育者と同じ音程で歌いながら手拍子でリズムを意識する
- ・最後の言葉を注意深く聞き反応する。

- ・言葉を素早く理解し、大きい・小さいなど言葉の意味を理解し瞬時に動く。
- ・言葉のイメージをとらえ、声（オノマトペ）の表現を楽しむ。
- ・生き物になりきり、オノマトペに抑揚を入れながら動く。

## ② 表現的要素

- ・保育者・友だちと一緒に歌い、音楽を感じる。
- ・オノマトペに合わせて手の動き、身体の動きを同期させる。
- ・落とす物に応じて速さや大きさの変化を身体全体で表現する。
- ・生き物の言葉から、蝶々→花、ダンゴムシ→丸くなる・丸くならない、セミ→木に引っ付くなど、体験を動きで表現する。
- ・保育者が触ると子ども一人ひとりが考え、動きを変化する

## ③ 音楽の技能

- ・リズムを感じながら、見立て遊びが展開する。
- ・生き物や乗り物に応じてリズムカルに表現する。
- ・空間を広く使いながら考えて動く。（衝突しない）
- ・保育者の声がけから、最初の動きから身体表現を変える。
- ・保育者のオノマトペを聞きオノマトペで応答する。

## 【3・4歳児実践】

対象者：3歳児（女児：4名，男児：8名），

4歳児（女児：8名，男児：5名）

日 時：8月4日（金）10：00～10：15

保育者：保育経験16年目

表3

使用曲「おちたおちた」遊び内容

保育者の言葉：保，子どもの言葉：子，子どもの表現活動：『 』で示す

ねらい：動きたい，言いたい気持ちを受け止め表現することを楽しむ。様々な食べ物や生き物になりきって自由に表現する。

### ① 替え歌♪「おちたおちた」（座ったままで）

♪おちたおちた なにがおちた（保子歌う）

ボール（保）

保「遠くまで飛ばそう」子「シュ——」  
『立って，座ってボールを投げるポーズ』  
子「ハイ」子「次はカミナリ」

♪おちたおちた なにがおちた（保子歌う）

保「カミナリ おへそかくしてー」

『うずくまる，お腹を抑えながら小さくなる』

子「ハイ」保「誰にしようかな」子「へび」保「ど  
うやってつかまえる」子「こうやって」

『両手を上下にずらしながらつかむ動き』

♪おちたおちた なにがおちた へび

保「ニョロニョロニョロ〜」子「ニョロニョロ」

子「ハイ」保「誰にしようかな」「サクランボ」

保「どうやって食べる」子「拾って食べる」

♪おちたおちた なにがおちた サクランボ

保「おいしいね」

『つまんで食べる動き』『友だちを見ながら食べる』

子「ハイ」保「誰にしようかな」子「大きいミ  
カン」

保「どうやって拾う」子「手を広げて」

♪おちたおちた なにがおちた 大きいミカン

保「皮向いて 皮向いて ばくん」

『ひとり一人が自分のミカンを皮むき筋にとって大  
きな口を開けて食べる動き』

子「ハイ」保「誰にしようかな」子「カエル」

保「カエルは落ちるの？」子「跳ぶ」

### ② 替え歌「とんだとんだ」（立って全身で動く）

♪とんだとんだ（子ども歌う）なにがとんだ（保  
育者歌う）カエル

子「ゲロゲロ」子「ピヨーン」

『好きな場所に跳んでいく』『ジャンプしながら動  
く』『お互いがジャンプする姿を見ながら動く』

子「ハイ」子「バッタ」

♪とんだとんだ（子ども歌う）なにがとんだ（保  
育者歌う）（バッタ）

『上に高く飛び跳ねる』



保「カエルよりバッタの方が高く飛んでるね」  
子「ハーイ」保「誰にしようかな」子「カマキリ」  
子「シャー」

『右手シュッ左手シュッ』『右手シュシュ 左手  
シュシュ』

♪とんだとんだ（子ども歌う）なにがとんだ（保  
育者歌う）カマキリ

『手を素早く動かしながら保育者・友だちに触る』  
子「ハーイ」保「誰にしようかな」子「ウサギも  
跳ぶよ」

♪とんだとんだ（子ども歌う）なにがとんだ（保  
育者歌う）ウサギ

『ピョンピョン部屋中を跳びながら動く』  
子「ハーイ」保「誰にしようかな」子「ちょうちょ  
うも跳ぶよ」子「羽で跳ぶ」子「緑の蝶々」子「青  
色」子「水色がいい」

♪とんだとんだ なにがとんだ（子ども歌う）保  
（ちょうちょう）

『3歳児は保育者の後について動く』  
保育者が花になると『8人が保育者の花に気づき  
花の蜜を吸い始める』  
保「誰か花になってくれるかな」  
『4歳児8人が花になる』保「おいしそうな花だね」  
保「ちょっと休憩」保「いっぱい飛んだね」  
子「ハーイ」保「誰にしようかな」子「花火」子「あ  
がったよ」  
保「あがるあがる…かな」子「とんだとんだ」

♪とんだとんだ なにがとんだ（子ども歌う）保  
（はなび）

子「ヒュ〜」子「パーン」「バンバンバン」子「バ  
リバリバリ」  
『子ども一人ひとりが声を出しながら自分の見た  
花火を思い出して動く』  
保「連続花火や大きい花火がいたね」子「黄色」「青  
赤」「ピンクもあった」  
子「ハーイ」保「誰にしようかな」子「だんごむし」  
子「丸くなる」

子「まあるくまるく」歌 保「まーるくまるくで  
歌ってみよう」

③ 替え歌♪「まるくまるく」（全身で動く）

♪まるくまるく なにがまるく（子どもが歌う）  
ダンゴムシ

保「みんなの知ってるダンゴムシになってみる」  
『背中を床につけ両足を上げる』『うずくまって丸  
くなる』

保育者「チョチョチョ」と言いながらつついてい  
く。

保育者の動きを見て『4歳児2名がみんなを「ツ  
ンツンツン」「チョチョ」と声をだしながら友だ  
ちに触って動く』

### 【3・4歳児考察】

3・4歳児の音楽的発達について、3つのポイント  
（①認知②表現的要素③音楽の技能）から考察する。

#### ① 認知

- ・保育者と一緒に手拍子を取りながら左右に揺れな  
がら歌う。
- ・最初の部分を子どもが歌い、後半を保育者が歌う  
掛け合いを楽しむ。
- ・食べ物、生き物の大きさや特徴を捉え、大きい声や小さな  
声や歌い方に抑揚をつける。
- ・4歳児はしっかりとした音程で歌い、3歳児は4  
歳児の真似をして歌う。
- ・食べ物、生き物の動きや食べる音のオノマトベを  
意識する。
- ・オノマトベを声の抑揚を入れて表現する。

#### ② 表現的要素

- ・落とす物に応じて歌う速さや声の出し方や動きを  
変化させる。
- ・落とす物によって、瞬間の表現から次の表現へ展  
開する動きがある。
- ・大きい、小さい、生き物の言葉からインスピレー  
ションを受け、動きが変化する。
- ・自由に動きながら、友だちや保育者に関わる動き  
をする。
- ・3歳児は保育者に関わりながら自分の動きを楽し  
む。

- ・ 4歳児は友だちや3歳児に関わりながら動きを変化させる。
- ・ 4歳児は声を出しながら自分なりに工夫しながら動く。
- ・ 床に寝転がる、部屋の隅々まで動く、上下運動や自分の知っている生き物を表現する。

### ③ 音楽の技能

- ・ 落とす物から瞬時に動く。
- ・ オノマトペの変化から動きを展開させる。
- ・ 1つの言葉を受け止め、自分で考えながら表現している。
- ・ 友だちと目を合わせる、向き合う、触る動きがある。
- ・ 生き物の特徴を考え、身体表現を次々変化させる。
- ・ 4歳児は部屋の空間を考えた動きをしている。
- ・ 保育者の問いかけに、オノマトペや動きで応答する。
- ・ 3歳児は保育者が関わりながら動きの変化を楽しむ。
- ・ 4歳児は友だちや3歳児に関わりながら動きを変化させる。
- ・ 保育者の言葉からインスピレーションを受け、ひとり一人が考えて身体表現をする。

## IV. まとめ

0～5歳児「おちたおちた」の遊び提案から、保育者が各クラスの子どもたちの発達や現在の様子を考え実践を行った。子どもの年齢や発達、興味・関心、実践場所や時間帯など、子どもたちの感性や表現活動に違いはあるが、3つのポイントから音楽的発達を育むことができたのではないだろうか。

1歳児では、日常品の中から柔らかい感触のものを選び、素材の違いを楽しむ提案から、普段から遊びで使用しているオーガンジーのハンカチを使って実践する。保育者の声と動きを模倣し同じ音程で歌を繰り返し歌う姿、保育者のオノマトペに合わせて自分の身体を触れることを楽しんでいる。また、歌の速さに合わせて身体を左右に揺らし、保育者のハンカチの動きと同期させている。保育者の言葉やオノマトペを受動的に感じ、声や動きの模倣が、音楽

的発達のきっかけと言えよう。いつもの何気ない遊びの中でも、保育者の声や動きを感じ模倣している。保育者は声の表現がリズムを感じるきっかけとなるため、声の出し方・話し方・身体の動きが重要と考える。

3歳児では、歌詞を替えて歌う提案から、言葉の意味を理解し、イメージを声で表現して楽しんでいる。生き物になりきり声に抑揚を付けながら動く姿や保育者・友だちと一緒に歌い手の動き、身体の動きを同期させている。また、言葉から動きや声を連想しながら、最初の動きから身体表現を変えている。保育者の言葉やオノマトペを聴き取る能力があり、言葉から瞬時に声や動きで表現していると言えよう。保育者が声をかけるタイミングや言葉の内容など、子どもの興味・関心を日常の遊びから観察することが重要と考える。

3・4歳児クラスでは、いろいろな歌詞に替え自由に身体全体を動かしながら友だちと関わる提案から、4歳児はオノマトペで応答する音楽的コミュニケーションが見られ、言葉を聴き取り考えながら全身で自由に動く姿があり、3歳児は4歳児の動きの模倣から、他者の刺激を受け表現していると言えよう。保育者はひとり一人の自由な発想を受け止め、そこから生まれる動きや言葉を表現できる環境を作りながら、子どもが他者との関りや遊びを考え工夫する過程を援助することが重要と考える。

今回の遊び提案から、保育者が子ども一人ひとりにじっくりと向き合い、子どもの発達に寄り添う遊びの展開は、年齢別の音楽的発達や表現力を育むことができたと考える。

筆者は今後の遊び展開について、1歳児クラスには、秋から冬にかけて2歳になる子どもが増えることから、触って遊ぼうを継続し、保育者の動き・表情・言葉の模倣から全身表現の遊びを提案したい。3歳児クラスには、気持ちを受け止め歌詞の変化や見立て遊びから、子どもたちが関わりながら表現できるよう提案したい。3・4歳混合クラスには子ども一人ひとりの発想を受け止め、他者の刺激から動きを変化させ、複数で表現できるよう提案したい。

1つの手遊びをどの年齢にも対応できる展開方法は、保育者にとって重要なスキルアップと考える。今後も手遊びから音楽的発達を育むことができる実

実践方法をこの本を通して提案していきたい。

## 謝 辞

本研究に、ご協力いただきました香川短期大学附属のぞみこども園の園長先生をはじめ、実践に携わった先生方、子どもたちに感謝いたします。

## 参考文献

- 1) 全国大学音楽教育学会 中・四国地区学会（編著）（2023）『はぐくむアタッチメント0～5歳児の手あそび・歌あそび』音楽之友社
- 2) 小池美知子・安藤千秋（2019）「幼児の発達を促す年齢に応じた手遊び・からだ遊びの検討」―既存の手遊び・からだ遊び及び保育現場の意識に着目して― 全国保育士養成協議会 保育士養成研究報告書, pp.75-78
- 3) 山川智馨・別府祐子・藤山あやか・久光明美・安藤千秋（2019）「既存のスタンダードなあそび歌分析」―乳幼児の発達に着目して―中・四国地区学会 高知研究会冊子pp.9-10
- 4) 安藤江里（2021）「教育活動としてわらべうたによる幼児の音楽的発達に関する実証研究」―身体動作による表現に着目して―教育総合研究 pp.1-13
- 5) 前掲<sup>1)</sup>
- 6) 同上書, pp.53
- 7) 同上書, pp.59